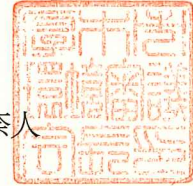


令和2年11月18日

厚木市長 小林 常良 様

厚木市環境審議会

会長 海老澤 模奈人



第5次厚木市環境基本計画の策定について（答申）

令和2年7月3日付けをもって諮問のありました第5次厚木市環境基本計画を策定することについて、慎重に審議した結果、別紙のとおり答申いたします。



第5次厚木市環境基本計画の
策定について
答 申

厚木市環境審議会

令和2年11月18日

答 申

第4次環境基本計画は、平成27年度から令和2年度までの6年間を計画期間とし、環境像である「みんなでつくる自然環境と共生する元気なまち」を実現するために、着実に取組を進めている。

この間、厚木市を取り巻く状況は、大きく変化してきた。国際的には、SDGsが国際社会共通の目標として掲げられ、地球温暖化に関しては、2020年以降の温室効果ガス排出削減等のための新たな国際枠組みであるパリ協定が発効した。また、国は、今年10月26日に菅内閣総理大臣の所信表明において、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す宣言があった。

このような中で、厚木市では、平成29年度に厚木市環境基本条例を策定し、時代に合った環境問題への対応の姿勢を明確にしている。

しかしながら、海洋プラスチック問題、オオキンケイギク等の外来種問題、気候変動を一因とする豪雨災害の激甚化、海外にあっては、永久凍土の溶解や森林火災の激化など、環境問題は、日々、新たな課題が顕在化している。

また、厚木市においては、鳥獣被害やヤマビルの問題、森林が持つ機能の低下など、豊かな自然環境を有するが故の課題も多いと考えられる。

第5次環境基本計画の策定においては、そのような背景を的確に捉え、必要なメッセージを市民に発信し、市民、環境保全等活動団体、事業者及び行政が、それぞれ必要な取組を進めながらも、お互いに連携し、目標に向かって進んで行けるようにしなければならない。

示された計画策定の案は、このような変化を的確に捉え作成されたものであり、8月19日に実施された意見交換会における市民の意見が反映されており、厚木市が積極的に進めている、市民参加・市民協働の理念を確実に取り入れているものと評価できる。

なお、計画の策定に当たっては、次の点に留意いただくとともに、今後実施される予定のパブリックコメントの意見を踏まえ、市民の声を反映させた計画となるよう努められ、誰もが分かりやすい計画とされたい。

また、審議過程における意見のうち、本答申に示し得なかつた個別の取組に対する意見については、実施計画の策定や取組を実施する中でいかされることを望む。

1 全体について

- (1) 計画は、SDGs を意識して進める必要があることから、推進する施策と 17 の目標との関連について示すとともに、厚木市だからできる取組を意識されたい。
- (2) 新型コロナウイルス感染症の社会的な影響を考慮した内容とされたい。ただし、6 年の計画期間の中で情勢が大きく変化することが予測できることから、計画期間内の状況に合った表現等、慎重に検討されたい。

2 環境像について

現在策定中の第 10 次総合計画の環境分野のまちづくりのビジョンである、「環境に優しく、自然と共生するまち」を本計画が目指す姿である環境像とすることについては、厚木市の魅力である自然の重要性が表されており、総合計画の個別計画でもあることから望ましいものとする。

3 施策体系について

(1) 体系の統合について

現計画では、基本施策と重点施策の 2 つの体系が存在しているが、基本施策の体系に一本化し、その中から重点取組を示すという形は、市民に分かりやすいものと言える。

また、具体的な取組の記載についても、分かりやすい表現に努められたい。

(2) 基本目標について

現計画で使用している「低炭素」という表現を「脱炭素」に変えることは、国内外の多くの都市や企業で脱炭素という言葉を使って、目指すという姿勢が広まっていることから、望ましいものとする。

具体的な道筋を描くのは先の話としても、まずは厚木市の姿勢を示す意味で、脱炭素を掲げるべきであるが、2050 年を目途に目指すものであり、近々に達成すべき目標と誤解されることがないように説明を尽くされたい。

(3) 基本施策について

生物多様性の保全という言葉が使われるが、取組によって生物多様性が豊かになるという結果が伝わるように工夫されたい。

また、有害な化学物質の自然への流入をどのように抑えるかということが、安心・安全の観点で大切なことであるため、施策を検討する中で意識されたい。

(4) 施策の展開について

森林整備の効果が生物多様性の保全に資するだけでなく、健全な水循環や災害防止の機能も向上させるように、環境に関する取組の効果は多岐にわたるため、1つの取組が多様な効果を生み出すことを周知されたい。

4 計画の進捗管理について

目標達成に向けて計画を推進するため、PDCA サイクルに基づいた適正な管理を行うとともに、進捗状況については、広く公開されたい。